

連日の猛暑、体調に十分ご注意ください。5年間にわたり連載してまいりましたコラム「ＹＯ！この本読んだ？」と「サイト紹介」は、今号で最終回になります。次号からの新シリーズにご期待ください。現在会員登録数1,774人さま。ご愛読ありがとうございます。次号は9月19日発行の予定です／

＋----- ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》ＹＯ！この本読んだ？ Yasuko's & Okiko's Talk

《2》読書活動ボランティアのためのワンポイント 60

《3》サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》行って来ました！

【3】全国イベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■  
【1】お知らせ

●「第32回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（土）です。詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html)

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第29号の原稿を募集しています。お申し込み、詳細は ↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/06\\_res-pub/04\\_journal/boshu.html](http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html)

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

■-----■  
【2】コラム

\*\*\*\*\*

《1》ＹＯ！この本読んだ？ Yasuko's & Okiko's Talk

\*\*\*\*\*

Ｙ：メルマガ、およびこのコラムを始めてお蔭様で5年、60回を迎えました。

今回で〇さんをご退任です。ありがとうございました。

〇：読者のみなさま、ありがとうございました。新刊を読んで話題を提供しようというコンセプトでしたから、必ずしも、「推薦書を語る」ではなかったのですが、自分が納得する作品の基盤に1970～80年代の長編作品の印象が強くあって、とまどうことが多かったように思います。

Ｙ：それは、例えば上野瞭やさねとうあきらなどの作品などと比べてということですか。

〇：そうですね。2010年代は、読みやすく、多様性があり、装幀も美しく、平均点以上だと思われる作品が多いと感じました。その一方で、骨太の日本の作品にはなかなか出会えなかったようです。

Ｙ：あまりに重いテーマだと読者がついていけないのではないか、という思いがあるのでは？

〇：それは作家が？それとも編集者が？子ども読者が？

Ｙ：私の印象としては、スマホやコンピュータの発達によって自分のプライバシーが守りにくくなった社会の中で、友だちや家族とコミュニケーションをとるのがますます難しくなっており、そのことが、児童文学の中にも現れているという気がしています。「ことば」でこそ、人と人との関係が深まるものであり、文学は、ことばで人間関係を表現してくれるメディアでありながら、現代の児童文学の中では人を傷つけるのを恐れる状況は描かれても、本気で傷つけあっても立ち直るほどの人間関係が描けないような気がします。

〇：読者に寄り添って「それでいいよ」「無理しなくていいよ」と言ってくれる作品は、読者にとっては心地よいですからね。「自己肯定」できることは素晴らしいですが、小さくて弱い「自分」にしか関心が向いてないとすると…

Ｙ：文学とは何かということにつながるのだと思うのですが、もし、文学が社会の矛盾や人間の本質を描くものであれば、たとえ読んでいてしんどくても読者の持っていた固定観念を突き破るような作品を期待したいです。

〇：人間の負の部分や業の深さなども描いて欲しいですね。いじめをいじめの側から徹底的に描いた作品を読みたいと思いました。いま、国や学校をあげて活字文化を守るために、子どもに本を読ませようとしています。自分から読みたくなる気持ちが湧いてくるような作品と出会う場になってほしいと願っています。

\* 次回から、Ｙが理事長や児童文学者と新しい本について語ります。

\*\*\*\*\*

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 60

\*\*\*\*\*

その9 おはなしを語る(3) おはなしを選ぶ 10

聞き比べをした3つのおはなしの中で、今回は「鳥のみじさ」(『雪の夜に語りつぐ』笠原政雄/語り 中村とも子/編 福音館書店 1986年5月)のおもしろさについて前回の「鳥のみじい」(『子どもに語る日本の昔話2』稲田和子・筒井悦子/再話 こぐま社 1995年12月)と比べながら考えたいと思います。

「鳥のみじさ」は、「鳥のみじい」以上に簡潔な語りはじめて、第一文で、

おじいさんが登場し、山に来て休憩し、だんごを広げるところまでが語られています。

「見たこともねえきれいな鳥」は、「じじい、じじい。だんごくれえ」と言い、おじいさんは、鳥の美しさと、人間の言葉を話す不思議さに魅了されます。鳥は、だんごを全部食べるまで「だんごくれえ」を繰り返し、包んである紙までも「紙くれえ」と催促し、食べてしまいます。紙まで食べる鳥というのが、おじいさんの三番目の驚きです。

こうして、おじいさんの食べ物を包みごと全て食べてしまった鳥は、自らおじいさんの口の中に飛びこみます。「鳥のみじい」では、最初から鳥は不思議な歌を歌っており、おじいさんが舌の上で歌うように依頼しますが、「鳥のみじさ」では、この出来事の全てを鳥が自分の意志で行っています。

おへそから尾ではなく、羽が出て、おじいさんが引っ張ると、多少文言は違いますが、「鳥のみじい」と同じめでたい言葉をちりばめた鳴き声があります。この繰り返しは4回で後半にかたまっているのので、後半は、この鳴き声を繰り返し耳で楽しむことができます。そして、おじいさんは家に帰るとおばあさんにも羽を引っ張ってみるように言い、鳥はおばあさんが引っ張っても鳴きません。

「鳥のみじい」同様、おじいさんは、おばあさんの勧めに従って街道へ行き、お殿様に出会ってほうびをもらいます。「鳥のみじい」はここで終わりですが、「鳥のみじさ」は、それから町中で歌って歩き、だいぶたってから、引っ張ると羽がもげたという不思議な出来事の終わりまでが語られています。

前回の「鳥のみじい」に比べて少しだけ長い今回の「鳥のみじさ」は、このように長くても楽しめる工夫が随所に見られます。簡潔な語りはじめ、個性を持った鳥の存在で前半を惹きつけ、後半で鳥の歌を聞かせ、おばあさんも鳥の羽を引っ張るという変化を見せ、鳥の羽が取れてしまうという結末まで語ることで、前回の「鳥のみじい」より少し複雑な語りを楽しめるようになっているのです。そして、だんごをくれたおじいさんに、言葉を話せる鳥が、おじいさんのお腹の中に入って歌を歌って恩返しをした話になっています。

その魅力に加えて、このおはなしは方言で語られていると同時に、「やがもご やがもご」「こつん」など擬態語、擬音語が多用されており、このお話全体が親しみやすく、ユーモラスに響きます。

\* 次号は「その9 おはなしを語る(3) おはなしを選ぶ 11」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

\*\*\*\*\*

### 《3》 サイト紹介 一子どもの本をリサーチする一 〈最終回〉

\*\*\*\*\*

本欄では、資料の「所在情報データベース」と「一次資料データベース」、二つの柱からさまざまなサイト(59種類)をご紹介します。この10年で、インターネットの普及とともに実に多くのサイトが立ち上がり、資料や情報のデジタル化が急速に進められてきました。それにより、こ

んな機関、こんな場所にこんな資料があったのか！といった驚きや、また原本の貴重さゆえ、これまで公開されることのなかった資料が、デジタル化によって自宅にいながらPC上で容易に閲覧できるようにもなり、研究推進の観点からは望ましい状況が作られてきたといえます。こうした情報の作成や蓄積は、研究ではいわば〈基礎工事〉にあたる部分。今後、研究に関わる多くの方に恩恵を与えることになるでしょう。

一方、資料の検索・参照だけでなく、文学研究の分析対象となるテキストそのものがPCで扱えるようになってきています。アメリカやイギリスをはじめ、各国の小説・戯曲・詩などの作品が無償で提供されている海外の「プロジェクト・ゲーテンベルク」や、国内では「青空文庫」（作品数=13,224）などが有名で、児童文学関係では宮沢賢治、新美南吉、小川未明ら、その作品群も充実してきています。これらのデータは、用例の抽出や集計・統計を必要とする研究に大変有用なデータを提供してくれます。

このように、文学研究にPCやインターネットを活用する試みが行われてきたわけですが、留意すべきところもあります。

まずは、活字による出版物でも誤植が生じるように、こうしたデータベースにも必ずといってよいほど誤データが存在すること。容易に閲覧でき、複製しやすいことから誤りをそのまま引き継いでいくことも多く、研究上活用するような書誌情報などについては、実見を含めた周到な確認作業を伴うのはいうまでもありません。溢れる情報の中から、必要な情報とその精度を評価する能力が問われています。

また、「データベースに存在しない=ない」と決めつけてしまうことも要注意です。たまたま登録されていなかったり、データ作成途中であったり、いつも全ての情報がネットにあるとは限りません。当該データベースの守備範囲や現状をよく見極めたうえで、あくまで下調べの一つとして認識し、いつも結果を疑って「本当に正しいか」どうかを自ら確認する姿勢が今後ますます問われていくことになるでしょう。（J）

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

あべのハルカス美術館で9月27日まで開催されている「生誕100周年 トーベ・ヤンソン展～ムーミンと生きる～」に行ってきました。

「ムーミン」シリーズで有名な作者の生誕100年を記念して、2014年から全国で開催されてきた巡回展の最後です。およそ年代順に「1. 芸術家への道」「2. 戦争と青春」「3. ムーミン(1945-59年)」「4. 画家として」「5. ムーミン(1960年以降)」「6. 広がる創作の世界」の6つの章に分けられ、油彩、水彩、挿絵やマンガの原画、模型など約400点が展示され、トーベの生涯を追っていくことができます。

芸術一家に生まれたトーベは、幼い頃から画家を志し、芸術大学や美術学校で絵画を学んだそうです。子どもの頃に描いた落書きのような素描は、構図や色使いから楽しい物語が想像でき、才能を強く感じます。

油彩や水彩は、ムーミンとは全然違った雰囲気です。「神秘的な風景」というタイトルの絵の、暗い山と青い木々の中に描かれた赤い木がとても印象的でした。自画像もたくさんあり、若い頃のものや年を経てからのものを見比べることができました。

「ムーミン」は、戦時中に暗い現実からの“一種の逃避”として執筆されたようで、当時の政治風刺雑誌「ガルム」に描いた挿絵の中に、ムーミンの原形を見つけることができました。「ムーミン」の作品は、小説の挿絵、新聞に連載されたマンガの原画や下書き、絵本版のカラーの原画、立体模型など、初期のものから最後のものまでたくさん展示されていて、描かれた線の美しさにほれほれしながら見ていきました。

『不思議の国のアリス』や『ホビットの冒険』など児童文学の挿絵もあります。アリスの挿絵は不気味さが面白いと感じました。他にも、トーベが毎年夏を過ごした小島の小屋が再現されていたり、ビデオで紹介されたりして、トーベ・ヤンソンについて幅広く知ることができました。(K)

---

### 【3】全国のイベント紹介

---

#### ● 2015イタリア・ポローニャ国際絵本原画展

日 時：8月22日(土)～9月27日(日) 水曜&9月24日休館 9月23日開館  
午前10時～午後5時、金曜日は～午後7時(入館は30分前まで)

場 所：西宮市大谷記念美術館(兵庫県西宮市)

料 金：有料

主 催：西宮市大谷記念美術館/毎日新聞社/(一社)日本国際児童図書評議会

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

---

### 【4】プレゼント

---

今号のコラム《4》「行って来ました！」で紹介しましたトーベ・ヤンソン展のグッズ「活版ノート」を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.60 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。締切は9月10日(木)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

孫がサッカー大会の会場だというので、母校の中学校を訪れた。およそ50年ぶりだ。面影は全くなかった。昭和30年代、木造校舎の板張りの壁は隙間だらけ、冬は北風が教室に吹き込み、すぐ隣を蒸気機関車が黒煙を上げて通り

過ぎた。楽しい思い出の一つもなく、熱中するものもない、冷めた3年を過ごした…。

我に返れば、松葉杖で炎天下のグラウンドに立ち、チームメートに懸命の声援を送る一人の中学生がいた…。(A)

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

---

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

---